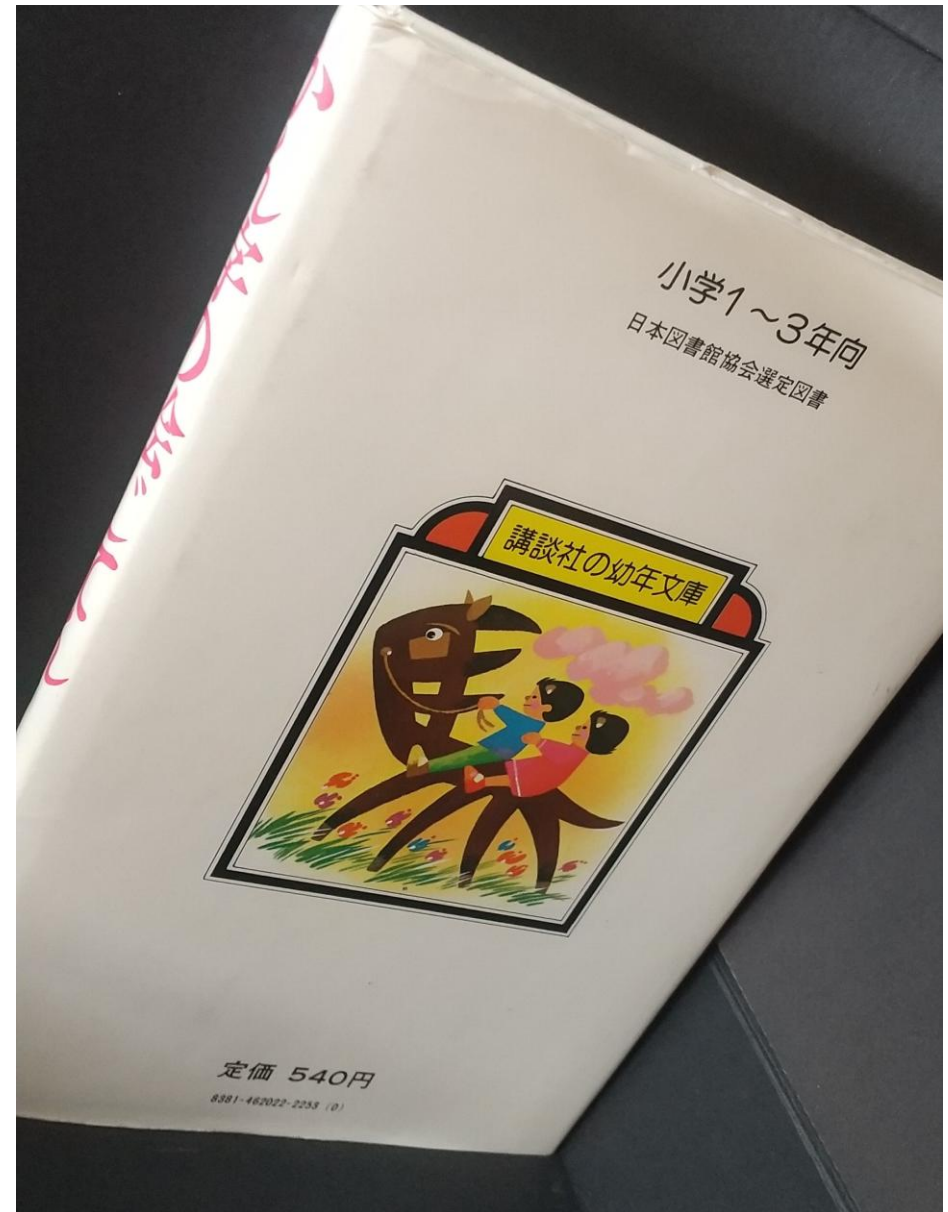
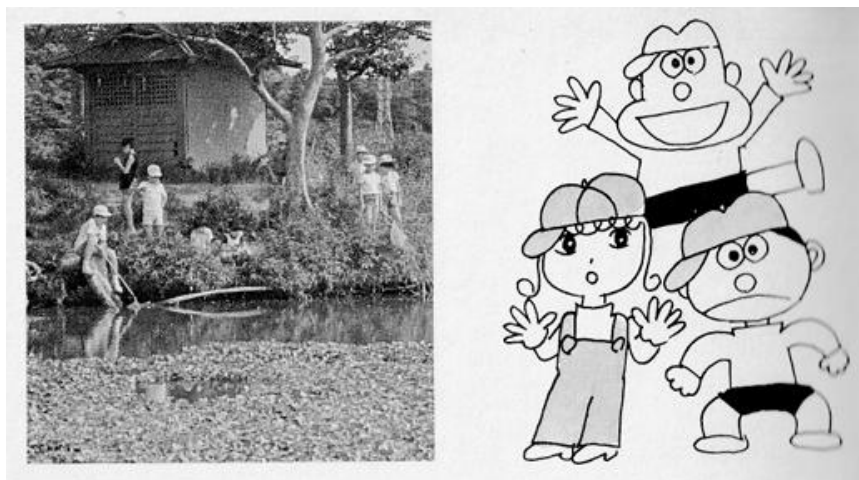


かん字の絵じてん







もくじ

山の どうぶつ村の 大さわぎ

かん字のはたらき

文字のはじまり

かん字のでき方

どこかが 似てるね

かん字の形

部首の いろいろ

形の よく にた かん字

かん字の 読み方

ぼんたくんの 絵日記

おくりがな

じゆくごと 読み方

じゆくごの でき方

かん字の 書き方

かん字の 画数

一、二、三年生で ならう かん字

お母さまのためのページ

さし絵／内山安二・藤川秀之・前田松男・吉

田彦

写真／サンセット・フォト・ライブラ

リー・パブリケーション



たいへんだ、
たいへんだ。

ぴよん子さんが 大きな 声
を あげると、草の かげの
あなから、たぬきの ぽんたく
んが、ねむそうな顔を だしま
した。
それから、大あわてで 走り
はじめました。
いったい どう したのでし
ようね。



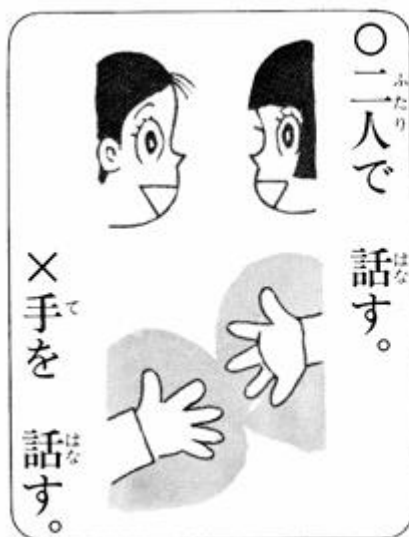
わあつ、
やまから
ひが きた。

山の どうぶつ村に
大さわぎ
朝が きました。
コケコッコー。
どこかで にわとりが
鳴いて います。
村いちばんの 早おきは、
うさぎの ぴよん子さんです。



ぽんたくんは いきを 切ら
せて、 くまの くますけおじ
さんや りすの しま子^こさんが
いる ところへ やって きた
のです。
みんなは、 いそいで、 ひ
よん子^こさんの 家^{いえ}に おかって
かけだしました。

ひよん子^こさんは、 山^{やま}の かげ
からの ぼって きた お日^ひさま
の 光^{ひかり}を あびて、 たいそうを
して いました。
「なんだ。 お日^ひさまが 山^{やま}から
でたのか。」
ぽんたくんの まちがい^{まちが}いに、
みんなで 大^{おお}わらいを しました。



かん字のはたらき

わたしたちが つかう 文字には、①か

たかな ②ひらがな ③かん字の、三つの

しゅるいが あります。

かたかなや ひらがなは、音(読み方)

だけを あらわしますが、かん字は 音と

いっしょに、いみも あらわして います。

ぽんたくんは 日と 火とをまちがえ

て、大さわざしましたね。

音は おなじでも いみが ちがう こ

とがらも、かん字なら、はっきり くべつ

して 知らせることができののです。

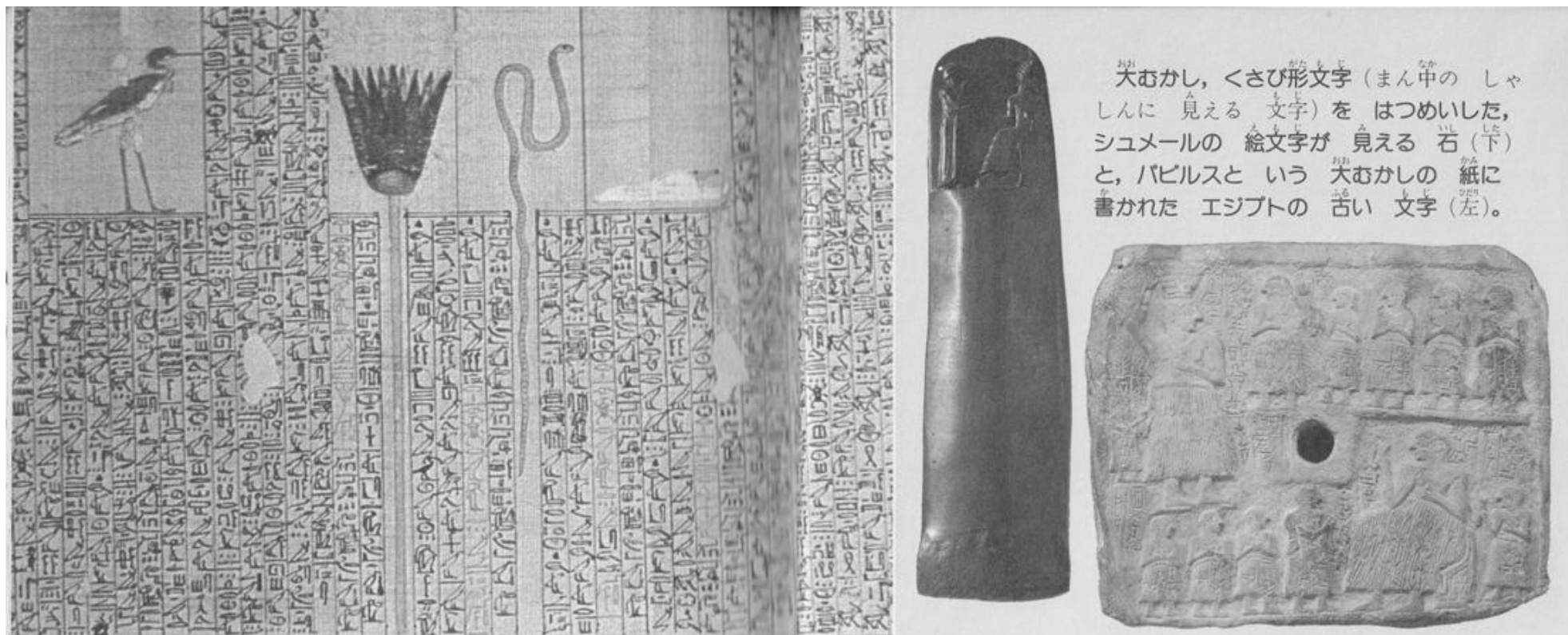
その かわり、読み方は おなじでも

字を まちがえると、いみまで ちがって

しまいます。

かん字が 正しく つかえるよう、さあ、

べんきょうしましょう。



大むかし、くさび形文字（まん中の しやしんに 見える 文字）を はつめいた、シュメールの 絵文字が 見える 石（下）と、バビルスと いう 大むかしの 紙に書かれた エジプトの 古い 文字（左）。

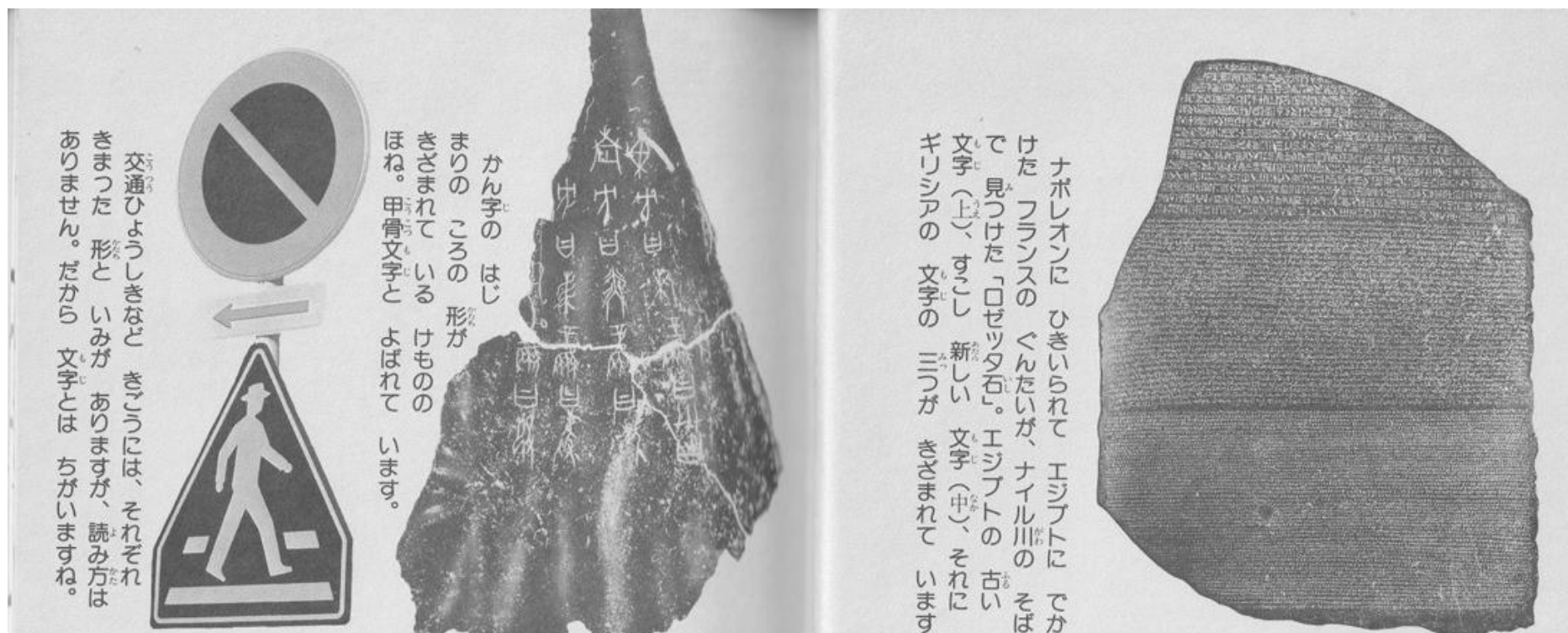
文字のはじまり

これは、大むかしの 人たちが つかって いた文字の いろいろです。

どれにも、絵に いて いる ところが ありま すね。

ことは、口からでた あと、すぐに きえて しまいますが、文字はなにか に 書いて おけば、いつ までも のこります。

遠くはなれて いる 人に ものごとを 知らせたり、たいせつな ことを わすれないよう おぼえて おくのに べん りです。



そこで、大むかしの人た

ちは くふうを かさねて、

はじめは 絵で ものごと

をつたえ、つづいて 絵文

字を 使い始め、やがて 文

字を 考えだすようにな

ったのです。

文字には、

(1) しまった 形

(2) しまった音 (読み方)

(3) しまった いみ

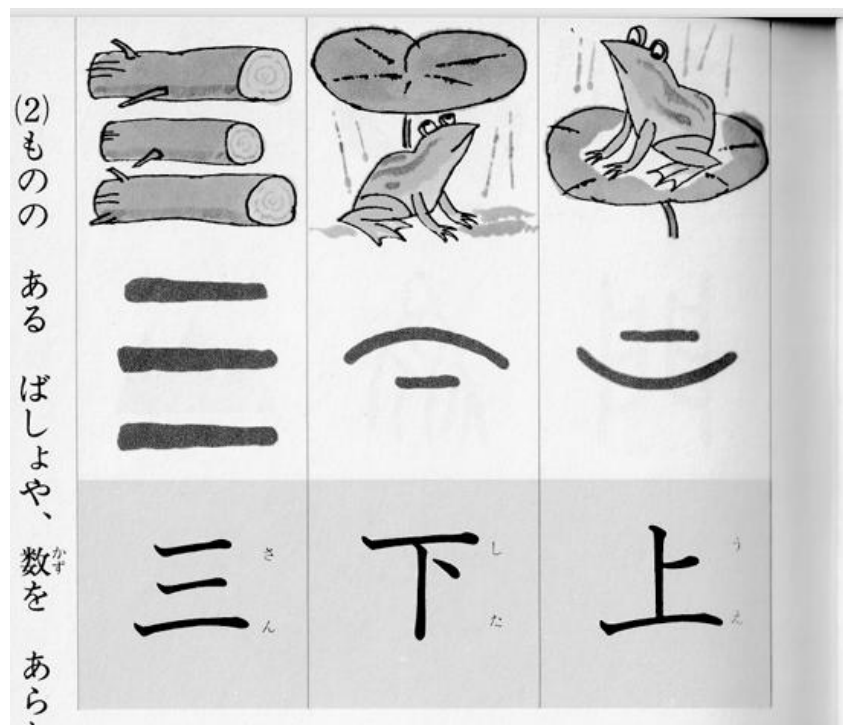
の三つが かならず あり

ます。

かたかなや ひらがなも、

つづりあわせると、いみを

あらわすことができます。



かん字のでき方

かん字も もともとは、もの
の 形を もとに して 作
られました。

けれども、文字は 形の な
い ものも あらわさなくては
ならないので、そのほか いく
つかの しくみが 考えださ

れました。

それを見てみましょう。

(1)ものの 形から でき

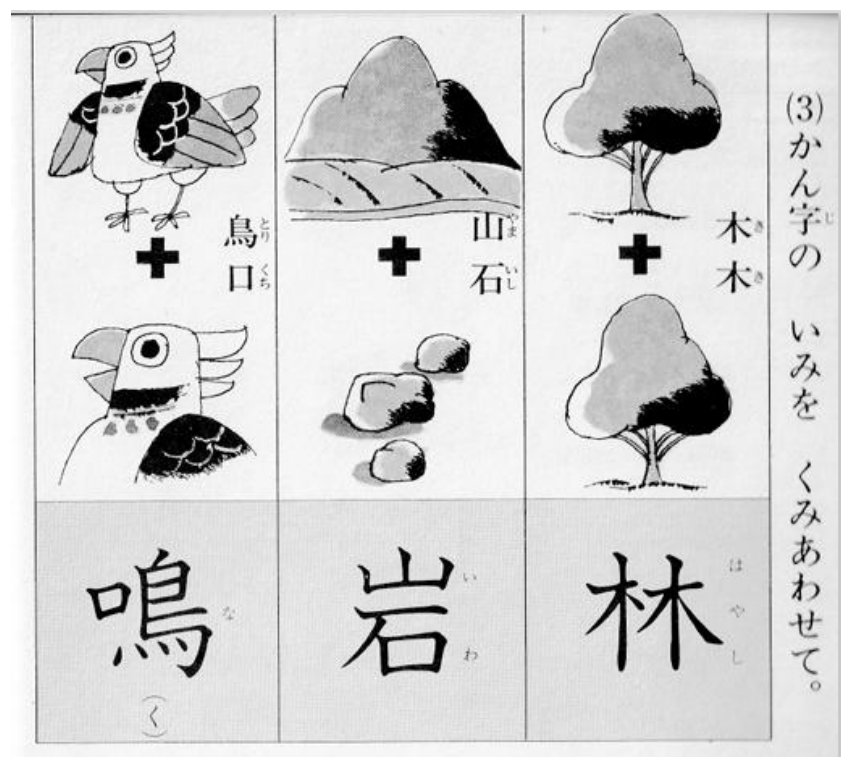
た かん字 (象形文字)

(2)点や せんで、もの

ある ばしよや、もの

数などを 表した かん

字 (指事文字)

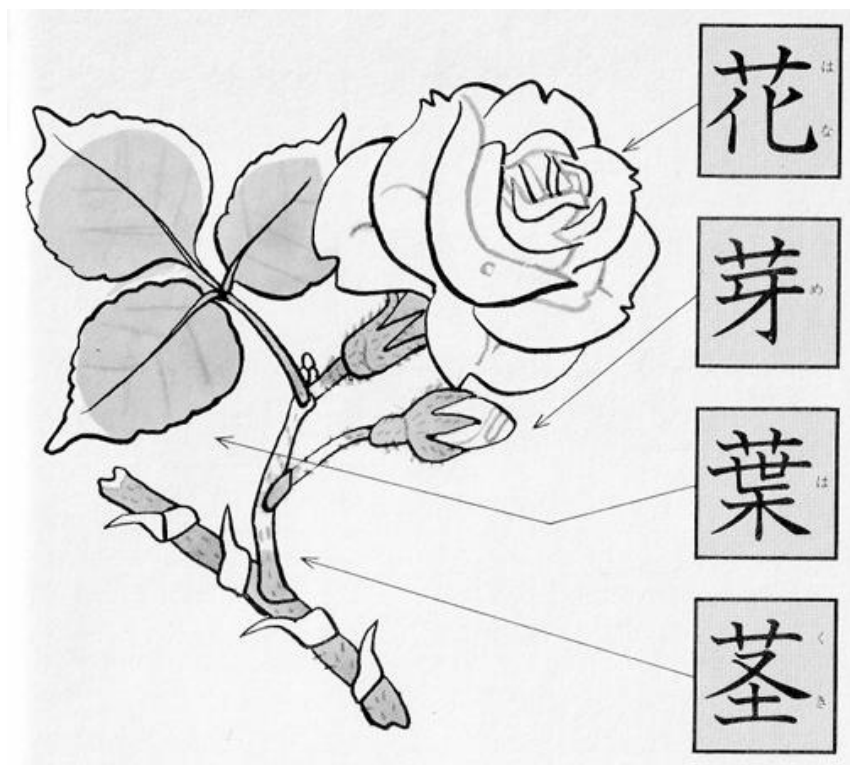
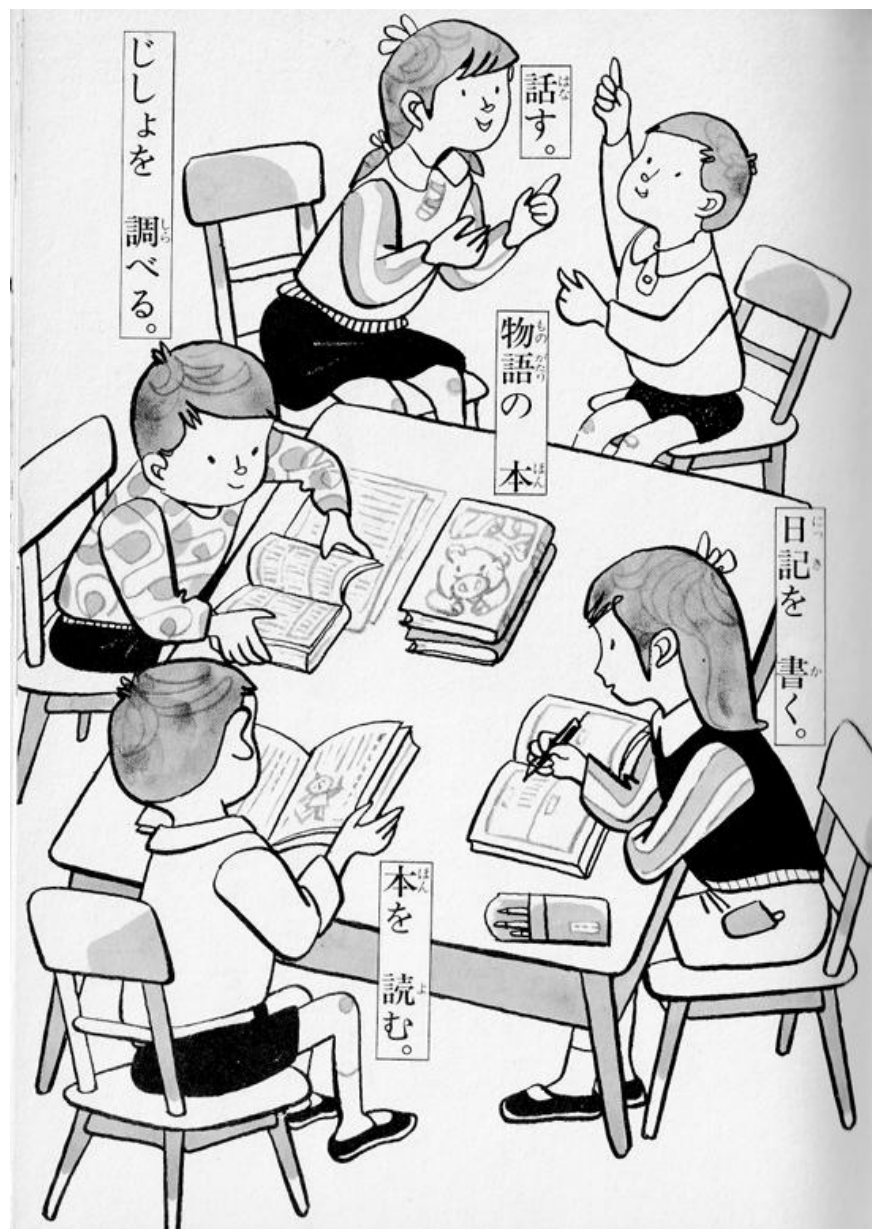


かん字の でき方が よく
わかると、かん字を 読んだり
書いたり する ときにも、
いみを 考える ときにも
やくに たって、とても べん
りです。

知って いる かん字の
でき方を 考えて みまし
よう。

(3) かん字の いみを くみあ
わせて できたかん字 (会意
文字)

(4) かん字の 音 (読み方) と
いみとを あわせて できた
かん字 (形声文字)



どこかに いてるね

廿(くさかんむり)は、しょくぶつに かんけいの ある かん字に よく つかわれます。

言(ごんべん)は、ことばのこと。ことばに かんけいの ある かん字に よく つかわれます。



かん字の形

かん字をよく見て
みましょう。

一つの字が、上と下

とか、右と左とかで、

わけられるようになって
いますね。

かん字は、たいてい、二
つじょうの文字（ぶぶん）
ん）がくみあわさって

できて いるのです。

このような、一つのかん
字の 中の ぶぶんの
ことを、「部首」とい
います。

部首は、つく ところに
よって、七つの しゅるい
に わけられて います。

ここに ある かん字の 読みがなは、三年生までに ならう ものに かぎりました。

頁	欠	斤	欠	卩	力
おあがい	あくび	おのつくり	のぶん	おおさと	ちから
顔	歌	新	教	都	動
頭	次	所	数	部	助

雨	竹	宀	宀	廿	一
りあめかんむ	りたけかんむ	りあなかんむ	うかんむり	りくさかんむ	なべいさんか
雲	算	空	字	花	高
雪	等	究	家	草	市
電	答		室	茶	夜

2

へん	
----	--

左がわにつくもの

ひへん	つちへん	てへん	さんすい	にんへん
時	場	指	温	海
晴	地	持	流	池
曜	坂	投		泳
				休
				作
				体

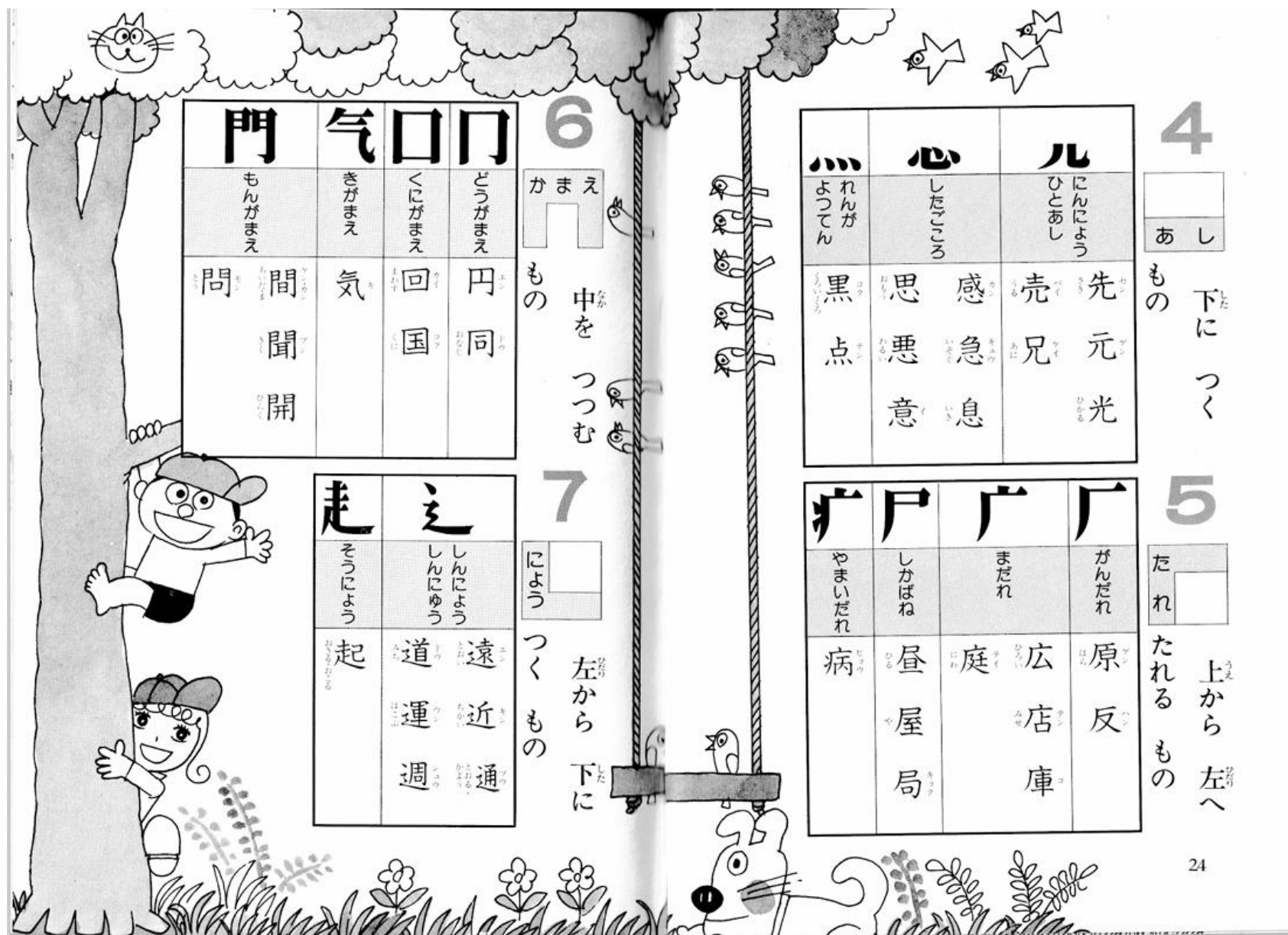
右がわにつくもの

言	糸	禾	ネ	木
ごんへん	いとへん	のぎへん	しめすへん	きへん
読	記	絵	秋	社
話	計	紙	科	神
	語	組	和	礼
				横
				校
				柱
				村
				根
				林

3

かんむり

もの 上に つく



部首のいろいろ

かん字の部首はたくさんあつて、そのよび方もいろいろです。部首のおもなものをみてみましょう。

(一画)

一 いち

丨 たてぼう

丶 てん

丿 はねぼう

(二画)

二 に

㇀ にすい

㇁ りつとう

㇂ わかんむり

㇃ はちがしら

人 ひとがしら
ひとやね

匸 はこがまえ

(三画)

㇄ こざとへん

㇅ おんなへん

㇆ ぎようにんべん

㇇ りっしんべん

(五画)

㇈ けものへん

目 めへん

(四画)

火 ひへん

矢 やへん

衣 ころも

(七画)

方 かたへん
ほうへん

𠂔 ころもへん
𠂕 はつがしら

車 くるまへん
里 さとへん

月 つきへん

(六画)

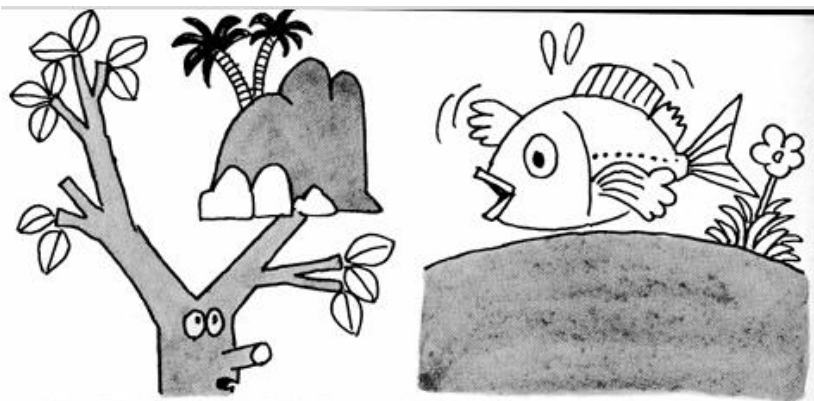
月 (肉)にくづき
耳 みみへん

金 かねへん

艸 おいがしら
舟 ふねへん
米 こめへん

隹 ふるとり

「かん字の形」にでてゐるものははぶきました。



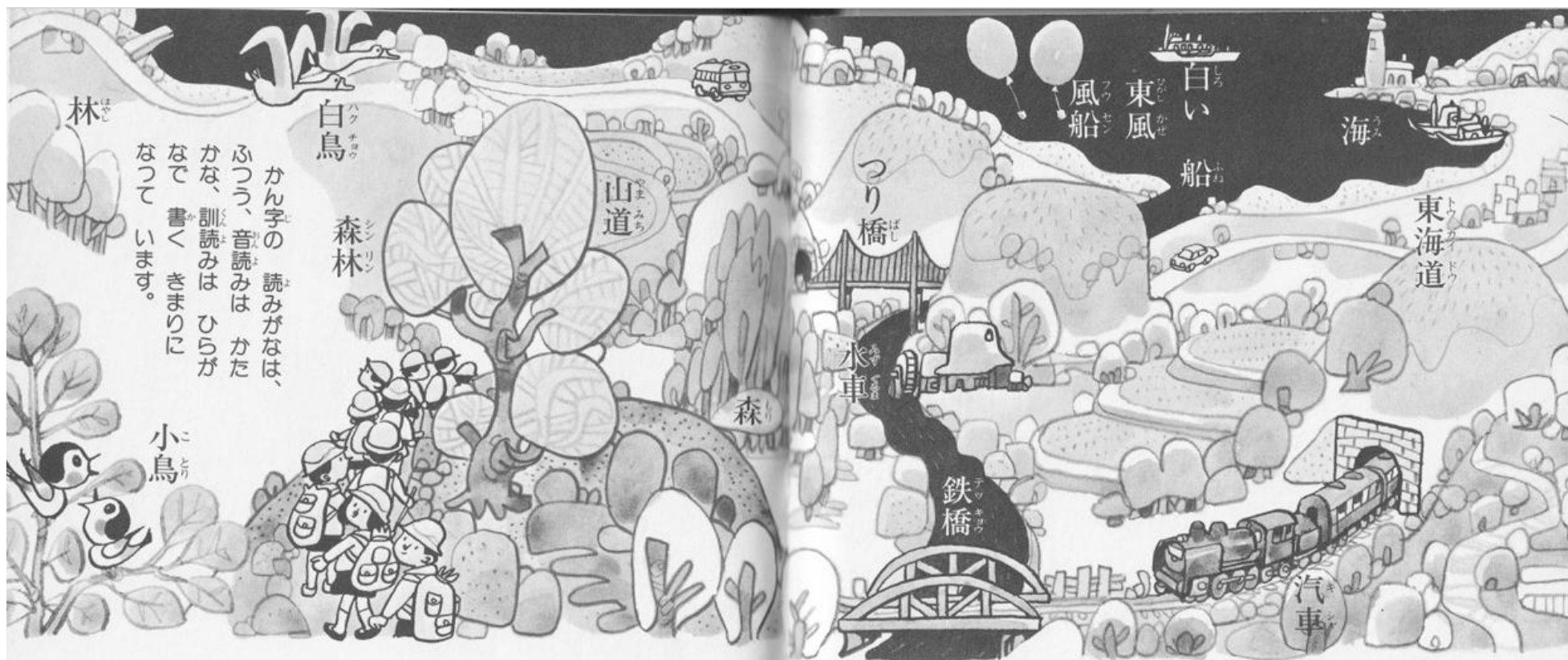
木に鳥がとまっています。
鳥 (チョウ・とり)
鳥 (トウ・しま)

地に魚がおよいでいます。
池 (チ・いけ)
地 (チ・ジ)

大 (ダイ・おおきい)
太 (タイ・ふとい)
休 (キユウ・やすむ)
体 (タイ・からだ)
村 (ソン・むら)
林 (リン・はやし)
持 (ジ・もつ)
待 (タイ・まつ)
話 (ワ・はなす)
語 (ゴ・かたる)



形のよくにたかん字
かん字には、形のよくに
たものがたくさんあります。
まちがえてつかうと、とて
もおかしなことになります。
気をつけてつかいましょうね。



かん字の読み方

かん字には たいてい、

二とおりの 読み方が

あります。

かん字は いまから

千七百年ほど むかし、

中国から日本に つた

わって きた 文字です。

そのため、

(1) 中国で つかわれて

いた 読み方に 近い

「音読み」

と、

(2) かん字の いみを

日本の ことばに あて

はめて 読んだ 「訓読

み」

の、二とおりの 読み方が

うまれたのです。



○月○日 火曜日
 きょうは 森の 神
 社のお祭りでした。
 神さまをおむかえ
 する たいまつ火
 が たかれ、夜店も
 たくさん ならん
 にぎやかでした。
 ぼくは わたあめを
 たべました。

ほんたくんの絵日記には、かん字の
 ことおりの読み方がでています。



ほんたくんの 絵日記
 ○月○日 月曜日
 夕がた、魚あみを
 持って 魚すくい
 に行きました。
 どじょうや ふなが
 たくさん とれました。
 帰り道、空に 大
 きな まんまるい 月
 が でて いました。



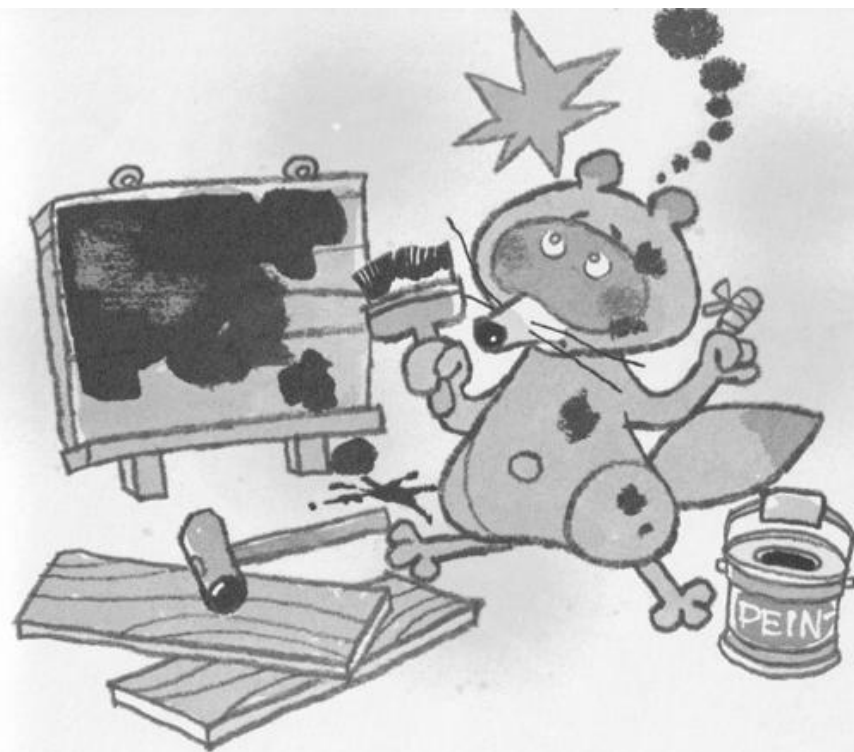
○月○日 木曜日
 きょうは 台風が
 やって きて、山は
 大あれでした。
 強い 風で、ふとい
 まつの 木まで たお
 れそうでした。
 外で あそべないの
 で、家の 中で 本を
 読みました。



○月○日 水曜日
 昼ごはんを たべた
 あと、川へ 泳ぎに
 いきました。
 友だちと バチャバ
 チャ 水を かけっこ
 したり、水泳せんしゅ
 のように とびこみを
 したり して、あそび
 ました。



○月○日 土曜日
 台風で くずれた
 道を なおす、土はこ
 びの お手つだいを
 しました。
 ついでに、にわに
 花の たねを まきま
 した。春には すてき
 な 花だんになると
 思います。



○月○日 金曜日
 工作の しゅくだい
 に、黒板を作る
 ことに しました。
 板を 黒く ぬるだ
 けで かんたんだと
 思ってたたら、金づちで
 指を たいたたり、顔
 まで 黒く なったり、
 大しっぱいでした。

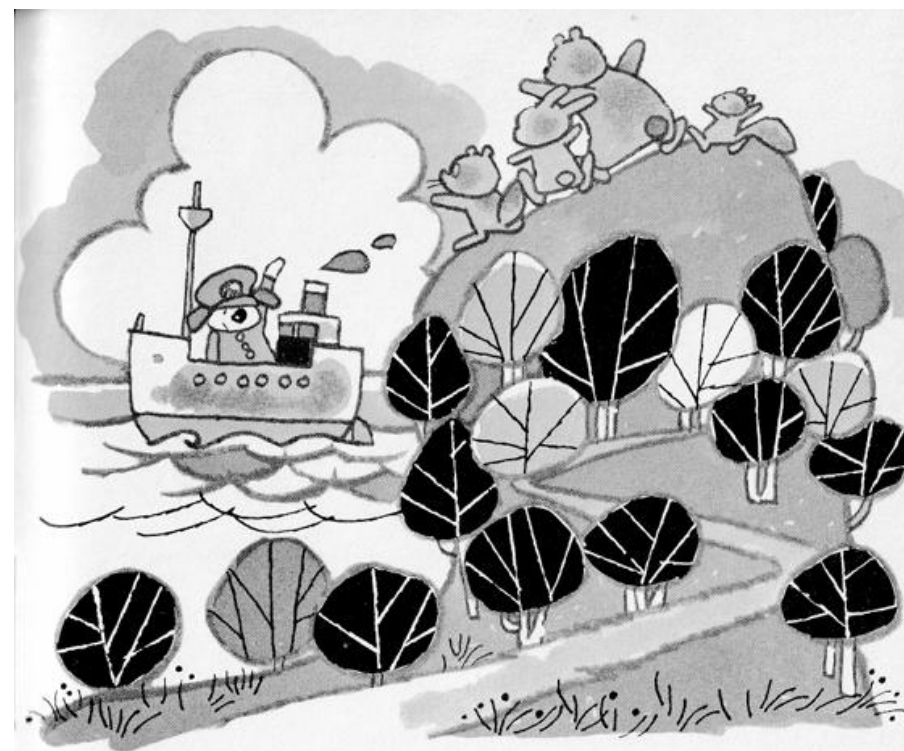


おくりがな

かん字を 訓読みすると

き、かん字の 読み方の あと
に かなを つける ことが
あります。

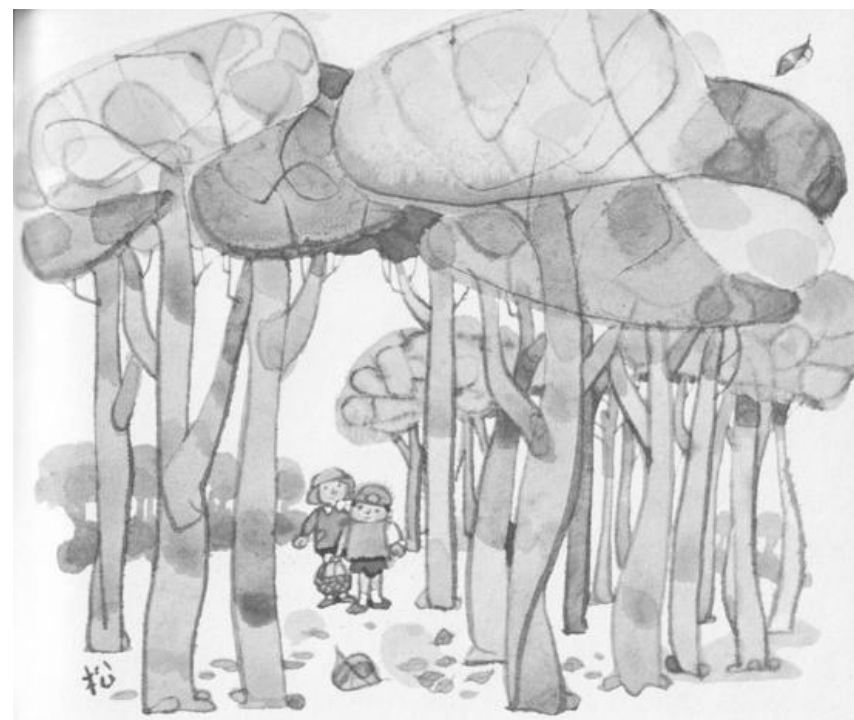
このように、かん字の 読み
方を たすける かなを、「お
くりがな」と いいます。



○月○日 日曜日

ぴよん子さんとちと、
海の 近くまで 遠足
に いきました。

遠くに 白い 船が
いて、船長さんが 手
を ふって いるのが
見えました。
ぼくたちも 手を
ふりました。



じゅくごと読み方

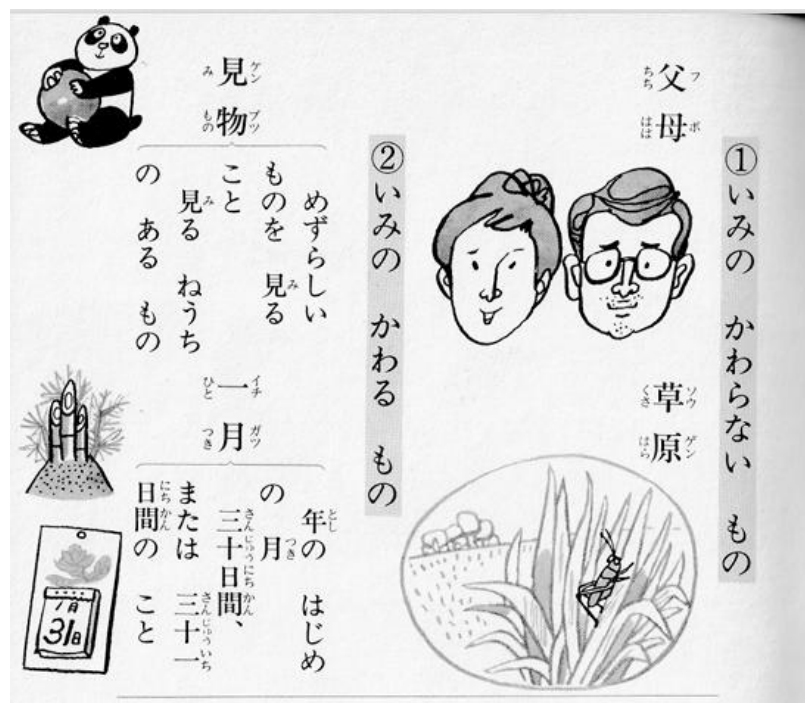
一字一字に いみがあ
る かん字と かん字とを
くみあわせると、いみがは
つきり したり、新しい
いみが うまれたり しま
す。
こう して できた こ
とばを 「じゅくごと」と

います。

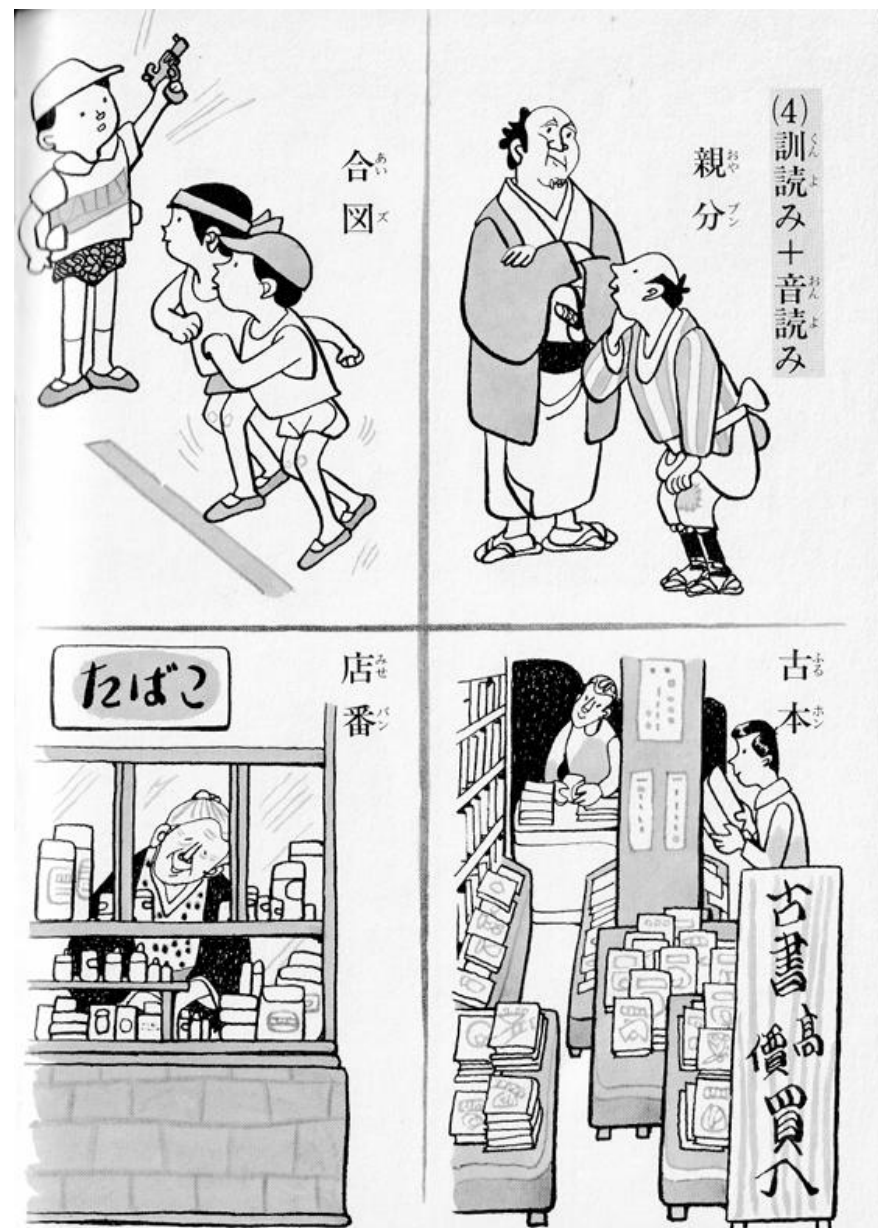
かん字は、じゅくごととして
つかわれる ばあいの ほう
が多いのです。

じゅくごの 読み方では、
音読みか 訓読みかを 気を
つけて 読むように しまし
よう。





(5) 音読みと訓読みのりよ
うほうができる じゅくご
では、
② 読み方がかわっても、
いみはかわらないもの
② 読み方がかわると、い
みもかわるもの
とがあります。



身シ体タイ「からだ」と
いうこと



家カ屋ヤ人のひとすむ
こと



生セイ活カツ「いきる」と
いうこと



(1) いみの よく にた かん字じを くみあわ
せて、ことばの いみを つよめる。



じゆくごの でき方かた

じゆくごには、かん字じの くみ

あわせ方かたに、いくとおりかの き

まりが あります。

きまりを おぼえて おくと、

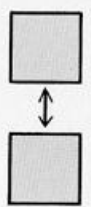
じゆくごの いみを 正ただしく 知し

るとき、とても やくに たちま
す。



大きいのと
小さいのと

大ダイ
小ショウ





上ウエと
下シタ

上ジョウ
下ゲ



前マエと
後ウシロ

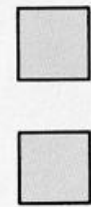
前ゼン
後ゴ

(3) いみが はんたいの かん字を くみあわ
せて、りようほうの いみを あらわす。



父ちちと
母はは

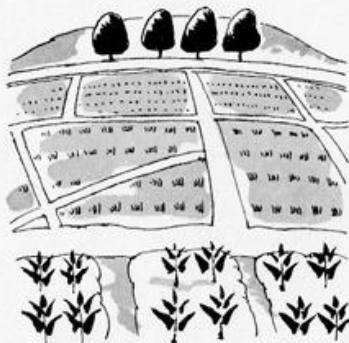
父フ
母ボ





草くさと
木き

草クサ
木キ



田たと
畑はたけ

田タ
畑ハタケ

(2) 対たいに なって いる かん字を くみあわ
せて、りようほうの いみを あらわす。

高いところ
(じめん)ろ

高地

白い鳥

白鳥

(5) 上の字が、下の字をくわしくせつめいする。

草のはえて
いる原っぱ

草原

読む。
本(書)を

読書

字を
ならう。

習字

(4) 上の字が、下の字のうごきをあらわす。

たま(ボール)を
なげる。

投球



じゆくごには、上と下のかん字が
いれかわると、ことばの
いみが
かわって しまう ものも あります。



かん字の書き方

かん字を書くときに
は、それぞれの字に、書き
方のじゅんじょがあります。

このじゅんじょのこ
とを「筆順」といいま
す。

筆順をしっかりとおぼ
えれば、正しいかん字を
きれいに書くことができます。

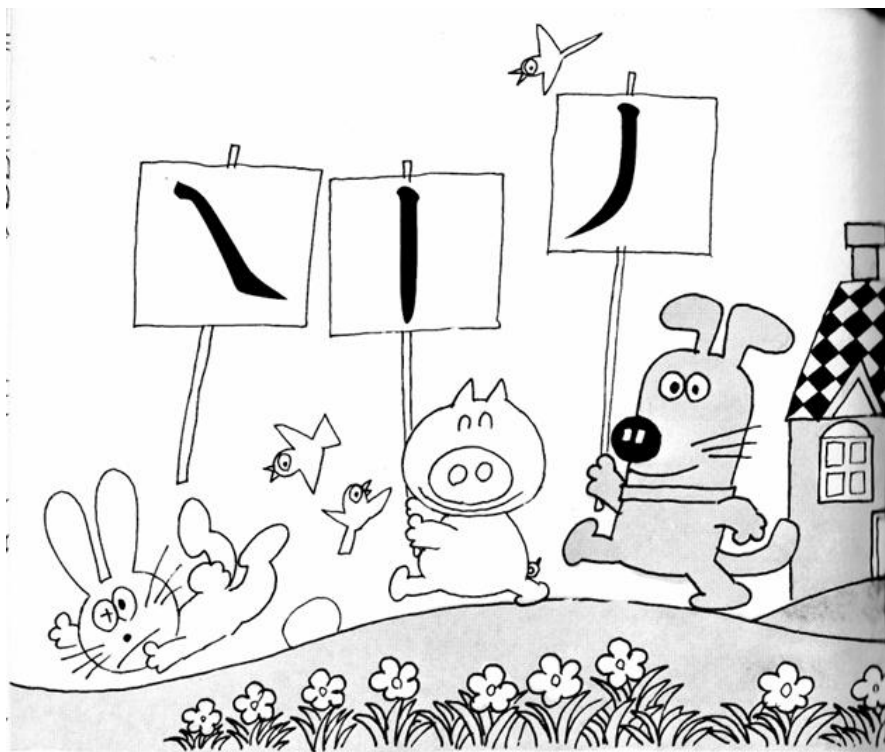
筆順は、かたかなやひ
らがなにもあります。
では、かん字の筆順の
だいたいのきまりを見
てみましょう。



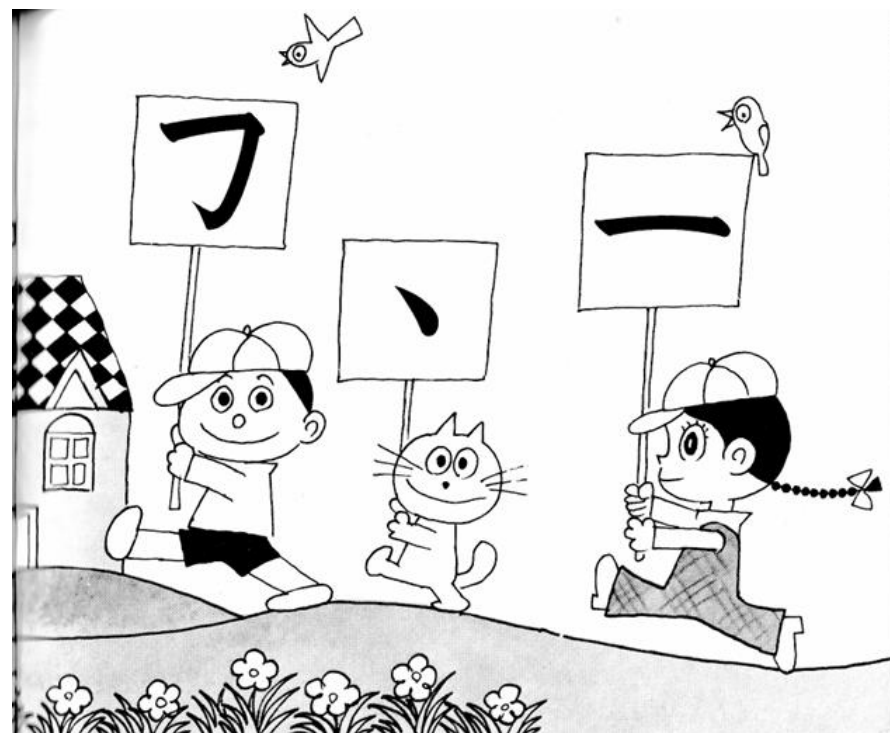


② ① 左  ② ① 友 	⑩ よこぼうが うを 先に。 みじかく、 左はらいの 長い 字は、よこぼ ① ② 右  ① ② 有  ⑨ よこぼうが いを 先に。 長く、 左はらいが みじかい 字は、左はら
---	---

① ③ 女  ② ① 母  ⑧ つきぬける よこぼうは さいごに。	⑦ つきぬける たてぼうは さいごに。 ④ ② ① 中  ① ② ⑤ ③ ④ 平 
--	--



そして、一つのかん字が
いくつの画で書けるか
かぞえたものを、そのかん
字の「画数」といいます。
小学校でならうかん
字には、一画から二十画の
ものまでがあります。



かん字の画数
かん字は、点やせんが
いろいろにくみあわさって
できていますね。
かん字を書くときの
点や、一つづきに書くせ
んのことを、「画」とい
います。

かん字の絵じてん

⑩ 十画の かん字 原	⑪ 十一画の かん字 雪	⑫ 十二画の かん字 答	⑬ 十三画の かん字 楽	⑭ 十四画の かん字 聞	⑮ 十五画の かん字 横	⑯ 十六画の かん字 頭
一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六

⑧ 八画の かん字 空	⑦ 七画の かん字 赤	⑥ 六画の かん字 休	⑤ 五画の かん字 正	④ 四画の かん字 火	③ 三画の かん字 山	② 二画の かん字 人	① 一画の かん字 一	画数
一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六



かん字には、いろいろなし
くみが ありましたね。
文字や ことは、学校での
べんきょうにも、毎日の くら
しにも、とても たいせつな
ものです。
しっかり みに つけましょ
うね。

ここに あるのは、画数を まちがえやすい 部首です。
し っ かり お ぼ えて お き ま し ょ う 。
子 (こ・こへん) 三画 ㇏ 了 子
又 (えんによう) 三画 ㇏ 又
弓 (ゆみ・ゆみへん) 三画 ㇏ 弓
之 (しんによう) 三画 ㇏ 之
𠂇 (右 おおざと) 三画 ㇏ 𠂇
𠂇 (左 こざとへん) 三画 ㇏ 𠂇
ネ (しめすへん) 四画 ㇏ 𠂇
𠂇 (はつがしら) 五画 ㇏ 𠂇
糸 (いとへん) 六画 ㇏ 𠂇



引	二年生で ならう かん字 145字	赤	石	夕	青	生	正	水	人
ひん ひく・ひける		セキ・シヤク あか・あかい あからむ・あか らめる	セキ・シヤク いし	セキ ゆう	セイ・シヨウ あお・あおい	セイ・シヨウ き・なま	セイ・シヨウ ただし・まさ	スイ みず	ジン・ニン ひと
4		7	5	3	8	5	5	4	2
雲		虫	中	男	大	村	足	早	先
クモ		チュウ むし	チュウ なか	ダン・ナン おとこ	ダイ・タイ おおい・おおい	ソン むら	ソク あし・たり	ソウ・サツ はやい・はやい	セン かわ
12		6	4	7	3	7	6	6	3
遠		八	白	年	入	日	二	土	田
エン・オン とおい		ハチ やっ・やっ	ハク・ビヤク しろ・しろ	ネン とし	ニュウ はいる・はいる	ニチ・ジツ ひ・か	ニ ふた・ふた	ド・ト つち	デン た
13		2	5	6	2	4	2	3	5
何		六	林	力	立	目	名	本	木
ナニ・なん		ロク むっ・むっ	リン はやし	リキ ちから	リツ・リュウ たつ・たつ	メイ・ミョウ め・ま	ホン もと	ボク・モク き・こ	ブン・モン ふみ
7		4	8	2	5	5	6	5	4
		百							
		ヒヤク							

訓読みです。
音読み、ひらがなは

1,2,3年生で ならう かん字

花	火	下	音	王	円	雨	右	一	かん字
ハナ はな	ヒ ひ・は	カ おろす・おろる	カ・ゲ さげる・さがる	オン・イン おと・ね	オウ まるい	ウ あめ・あま	ミ みぎ	イチ・イツ ひと・ひとつ	読み方 読み方
7	4	3	9	4	4	8	5	1	画数
五	見	犬	月	空	金	休	九	気	学
イツ・イツ	ケン みる・みえる	イヌ いぬ	ゲツ つき	クウ あける・あかる	キン・コン かね・かな	キウ やすむ・やすまる	キウ・ク この・この	キ・ケ まなぶ	読み方 読み方
4	7	4	4	8	8	6	2	6	8
耳	字	糸	四	子	山	三	左	校	口
ミミ みみ	ジ あざ	イト いと	シ よつ・よつ	シ こ	サン やま	サン みつ・みつ	サ ひだり	コウ くち・くち	コウ・ク くち・くち
6	6	6	5	3	3	3	5	10	3
森	上	小	女	出	十	手	車	七	
シン もり		コ ちいさい	メ おんな	シュツ でる・だす	ジュウ とお・と	テ て・た	クルマ くるま	ナナ なな・なな	読み方 読み方
12	3	3	3	5	2	4	7	2	画数

一年生で ならう かん字 76字
訓読みです。
音読み、ひらがなは

紙	思	市	止	算	作	才	今	黒	国	谷	合
かみ おもう	いし ち	とまる・とめる	サン つくろ	サイ いま	コン・キン	くろ・くろい	くに	たに	あいう・あわす	あいう・あわす	あいう・あわす
10	9	5	4	14	7	3	4	11	8	7	6
場	少	書	春	秋	首	弱	社	室	時	自	寺
ば ジョウ	すくない・すこし	かく シヨ	はる シユン	あき シユウ	くび シュ	ジャク よわい・よわる	やしろ シヤ	むろ シツ	とき ジ	みずから ジ・シ	てら ジ
12	4	10	9	9	9	10	7	9	10	6	6
切	晴	星	声	西	数	図	親	新	心	食	色
きる・きれる	はれる・はらす	ほし セイ・シヨウ	せい・シヨウ	にし セイ・サイ	かず・かぞえる	ズ・ト はかる	おや・しい シヤ	あたらしい・あ シヤ	こころ シン	たべる シヨク・シキ	いろ シヨク・シキ
4	12	9	7	6	13	7	16	13	4	9	6
池	地	台	体	太	多	草	走	組	前	船	雪
いけ	ち・ジ	たい・タイ	からだ	ふとい・ふとる	おおい	くさ	はしる	くむ・くみ	まえ	ふね・ふな	ゆき
6	6	5	7	4	6	9	7	11	9	11	11

1,2,3年生で ならう かん字

外	貝	絵	海	会	回	画	歌	家	夏	科	かん字
ガイ・ゲ す・はづれる	かい	カイ・エ	カイ うみ	カイ・エ あう	カイ・エ まわる・まわす	ガ・カク	カ うた・うたう	カ・ケ いえ・や	カ・ゲ なつ	カ	読み方
5	7	12	9	6	6	8	14	10	10	9	画数
強	京	魚	牛	帰	記	汽	顔	間	楽	かん字	
しめる しいる	キョウ・ゴウ つよまる・つよ	キョウ・ケイ	ギョ うお・さかな	ギウ うし	キ かえる・かえす	キ しるす	キ かおん	カン・ケン あいだ・ま	ガク・ラク たのしい・たの	読み方	
11	8	11	4	10	10	7	18	12	13	画数	
後	午	古	戸	原	元	計	形	近	玉	教	かん字
ゴ・コウ あと・おくれる	ゴ	コ ふるい・ふるす	コ と	ゲン はら	ゲン・ガン もと	ケイ はかる・はからう	ケイ・ギョウ かた・かたち	キン ちかい	ギョク たま	キョウ おしえる・おそ	読み方
9	4	5	4	10	4	9	7	7	5	11	画数
黄	高	行	考	光	交	広	工	語	かん字		
コウ・オウ き・こ	コウ たかい・たか たがまたかめる	コウ かんがえる	コウ いく・ゆく おこなう	コウ ひかる・ひかり	コウ まじわる・まじ える・まじる まざる・まざる かう・かわす	コウ ひろまる・ひろ める ひろがる・ひろ げる	コウ ひろまる・ひろ める	コウ・ク うたかた・かた	読み方		
11	10	6	6	6	6	5	3	14	画数		

院員育意医暗安悪	野夜門	三年生で ならう かん字 195字 訓読みです。	
イ ン	イ ン	イ ン	イ ン
10	10	8	13
屋横園駅泳	運飲		
ヤ ウ	ヨ ウ		
9	15	13	14
階開界荷化温	曜用友		
カ イ	カ イ		
12	12	9	10
起岩岸館感寒活角	理里来		
オ キ	オ キ		
10	8	8	16

1,2,3年生で ならう かん字												かん字
点	店	弟	通	朝	鳥	長	昼	茶	竹	知	かん字	読み方
テン	テン	テイ・ダイ・デ	ツウ・ツ	アサ	チヨウ	ナガ	チュウ	チャ・サ	チク	チ	読み方	読み方
9	8	7	10	12	11	8	9	9	6	8	画数	画数
南	読	道	同	頭	答	東	当	冬	刀	電	かん字	読み方
ナン・ナ	ヨミ	ドウ・トウ	ドウ	トウ・ズ・トラ	コタ	ヒガシ	アタル・アデ	フユ	カタナ	デン	読み方	読み方
9	14	12	6	16	12	8	6	5	2	13	画数	画数
聞	分	風	父	番	半	麦	買	売	馬	かん字	読み方	読み方
ブン・モン	ワカル	フウ・フ	チ	バン	ナカバ	ムギ	バイ	ウマ	ウマ・マ	読み方	読み方	読み方
14	4	9	4	12	5	7	12	7	10	画数	画数	画数
毛	鳴	明	妹	毎	北	方	母	歩	米	かん字	読み方	読み方
モウ	メイ	メイ	メイ	メイ	ホク	ホウ	ボ	ホ	コメ	読み方	読み方	読み方
4	14	8	8	6	5	4	5	8	6	画数	画数	画数

拾	州	受	酒	取	守	主	者	写	実	式	持
ひろ シユウ・ジユウ	す シユウ	ジュ うける・うかる	シユ さけ・さか	シユ とる	シユ・ス まもる・もり	シユ・ス ぬし・おも	シヤ もの	シヤ うつす・うつる	ジツ みのる	シキ し	もつ シ
9	6	8	10	8	6	5	8	5	8	6	9
消	昭	助	暑	所	重	住	集	週	習	終	
シヨウ きえる・けす	シヨウ	ジュ たすける・たすかる	シヨ あつ	シヨ ところ	シユ えい かきかえる・かき	シユウ・チヨウ おもう	シユウ つど	シユウ あつめる・あつめる	シユウ シユウ	シユウ おわる・おえる	
10	9	7	12	8	9	7	12	11	11	11	
整	世	進	深	神	身	申	植	乗	勝	章	商
セイ のう	セイ・セ	シン すすむ・すすめる	シン ふかい	シン・ジン かみ・かん・こう	シン み	シン もうす	シヨク うえる・うわる	シヨウ のる・のせる	シヨウ かつ・まさる	シヨウ あきなう	シヨウ あきなう
16	5	11	11	9	7	5	12	9	12	11	11
題	第	代	待	対	打	他	族	息	送	全	線
ダイ し	ダイ	ダイ・タイ かわる・かえる	タイ ま	タイ・ツイ	ダ う	タ	ゾク	ソク いき	ソウ おくる	ゼン ま	セン し
18	11	5	9	7	5	5	11	10	9	6	15

1,2,3年生で ならう かん字

曲	業	橋	去	球	宮	級	急	究	客	期	かん字
キョク まがる・まげる	ギョウ・ゴウ	キョウ はし	キョ・コ	キウ たま	キウ みや	キウ	キウ いそ	キウ きわめる	キヤク・カク	キ・ゴ	読み方
6	13	16	5	11	10	9	9	7	9	12	画数
決	血	軽	係	兄	君	具	苦	銀	局	かん字	
ケツ きめる・きまる	ケツ	ケイ かるい	ケイ か	ケイ あに	クン き	グ	ク くるしい	ギン	キョク	読み方	
7	6	12	9	5	7	8	8	14	7	画数	
根	号	港	幸	向	公	湖	庫	言	県	研	かん字
コン	ゴウ	コウ みなと	コウ さいわい	コウ むく・むける	コウ お	コ み	コ・ク	ゴン	ケン	ケン	読み方
10	5	12	8	6	4	12	10	7	9	9	画数
事	次	詩	齒	指	始	使	死	仕	細	祭	かん字
ジ・ズ	ジ・シ	シ	シ	シ さ	シ は	シ ま	シ し	シ つか	シ・ジ つかえる	サイ ま	読み方
8	6	13	12	9	8	8	6	5	11	11	画数

勉	返	平	物	福	服	部	負	品	病	秒	表
ベン かえす・かえる	ヘン たいら・ひら	ヘイ・ビョウ もの	ブツ・モツ	フク	フク	ブ	フ おもう・まかす	シン しな	ビョウ・ヘイ やむ・やまい	ビョウ	ヒョウ おもて・あらわす・あらわれる
10	7	5	8	13	8	11	9	9	10	9	8
遊	有	油	由	薬	役	問	面	命	味	万	放
ユウ・ユ あそぶ	ユウ・ウ ある	ユ あぶら	ユ・ユウ・ユイ よし	ヤク くすり	ヤク・エキ	モン どう・どい	メン おも・おもて	メイ・ミョウ いのち	ミ あじ・あじわう	マン・パン	ホウ はなす・はなつ
12	6	8	5	16	7	11	9	8	8	3	8
列	礼	緑	両	旅	流	落	様	陽	葉	洋	予
レツ	レイ・ライ みどり	リョク・ロク みどり	リョウ	リョ たび	リュウ・ル ながれる・なが	ラク おちる・おとす	ヨウ さま	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨ
6	5	14	6	10	10	12	14	12	12	9	4
									和	路	
									ワ やわらぐ・やわ らげる なごやか	ロ じ	
									8	13	

1,2,3年生で ならう かん字

調	帳		丁	柱	注	着	短	炭	かん字		
テウ しらべる ととのう・ととのえる	テウ		テウ・テイ	テウ はしら	テウ そく	テウ さく さく・さける つく・つける	タン みじかい	タン すみ	読み方		
15	11		2	9	8	12	12	9	画数		
度	都	転	鉄	庭	定	追	直	かん字			
ド・ト・タク たび	ト・ツ みやこ	テン ころがる・ころげる・ころがす ころぶ	テツ	テイ にわ	テイ・ジョウ さだめる・さだまる さだか	ツイ おっ	チョク・ジキ ただちに なおす・なおる	読み方			
9	11	11	13	10	8	9	8	画数			
波	農	肉	内	童	動	等	登	湯	島	投	かん字
ハ なみ	ノウ	ニク	ナイ・ダイ うち	ドウ わらべ	ドウ うつく・うこか	トウ ひとしい	トウ・ト のぼる	トウ ゆ	トウ しま	トウ なげる	読み方
8	13	6	4	12	11	12	12	12	10	7	画数
氷	鼻	美	悲	皮	板	坂	反	発	畑	配	かん字
ヒョウ こおり・ひ	ビ はな	ビ うつくしい	ヒ かなしい・かな	カ かわ	イ いた	ハン さか	ハン・ホン・タン そる・そらす	ハツ・ホツ	ハ はた・はたけ	ハイ くばる	読み方
5	14	9	12	5	8	7	4	9	9	10	画数

漢字は学習の基礎、早くから養うこと

石井 勲

黄色い、縞のある蝶を見せ、数時間後にその蝶を沢山の蝶の中から見付け出させる実験をしますと、正しく見付け出す子供は、必ず「黄色」「縞」という言葉を知っている子供に限られています。これらの言葉を知らない子供には、数時間前に見たばかりの蝶の特徴が、もう頭の中に残っていないのです。

つまり、人間は、カメラのように物を目で捉えてこれを保存しているのではなくて、「この蝶は黄色いな。」「縞があるぞ。」というように、言葉を通してこれを頭の中に蓄えているのです。

だから逆に、「黄色い、縞のある蝶」という言葉を耳にすれば、その言葉を知っている子供たちは、その蝶のイメージを頭に描くことができますが、その言葉を知らない子供たちは、頭の中にそれを描くことができないわけです。

このように、同じ体験をしても、その人の理解している言葉の質と量との違いにより、その体験から得られるものが違ってくるのです。豊かな言葉を身に付けた人は豊かな体験を得ますが、貧弱な言葉の人は貧弱な体験にしかありません。

ところで、言葉を数多く、正しく理解するためには、まず漢字を理解することが必要です。例えば、「校舎」「講堂」という言葉でも、校と講という漢字の正しい意味を理解していなければ、これらの言葉を正

しく理解することはできません。

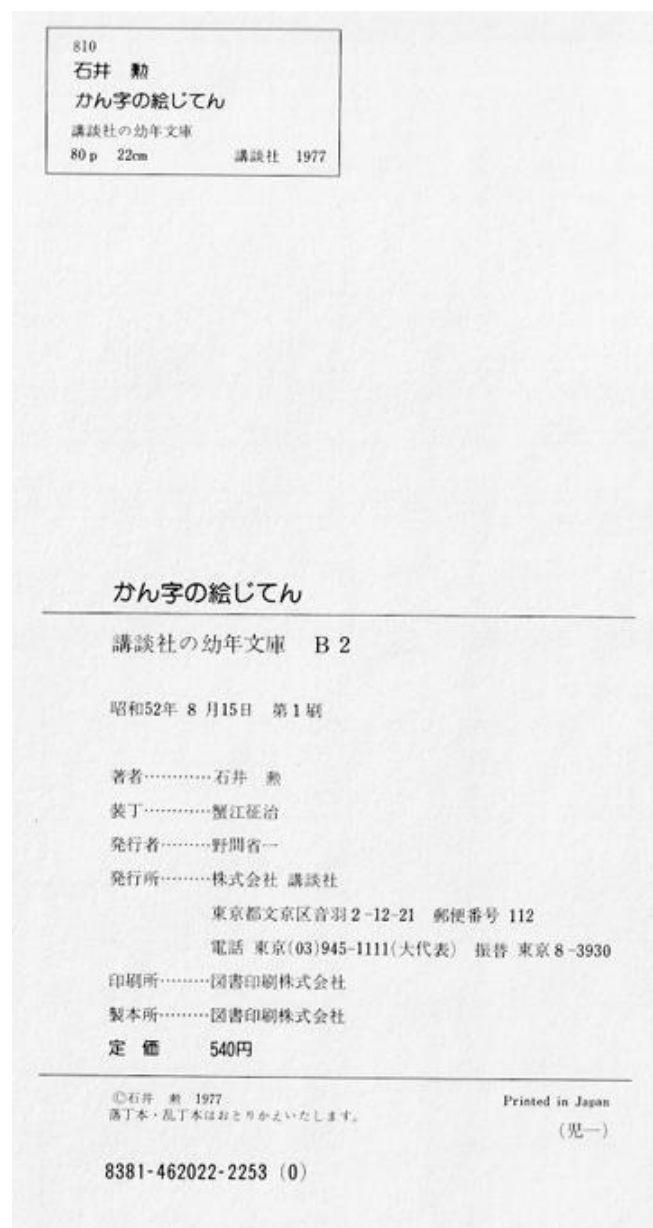
「こうしゃ」「こうどう」という言葉だけでは、「じゃ」と「どう」という音声の違いだけしか分かりません。また、「じゃ」「や」「どう」にしても、舎・堂という漢字で初めてその正しい意味が表現できるのです。

このことは、理科や社会科や、その他どんな学科でも、まず教科書を読み、文字や漢字を通して、その内容を頭の中に描けたときに、初めて学習を進めることができるのだ、ということを物語っています。

特に漢字が分からなくては、頭の中に何も描かれず、従って、学習を進めようがありませんし、反対に、漢字を良く理解していれば、たちまちその内容が頭の中に鮮やかに描き出され、学習が楽しく進められます。漢字こそ、あらゆる学習の基礎だということができます。

ところが、この漢字が、多くの子供たちにとって苦手とされていて、それが、今の学校教育に落ちこぼれの多い原因の一つとなっています。その理由は、最も漢字を苦勞せずに覚えられる低学年のうちに、多く学習させれば良いものを、それをさせないでいて、記憶力の低下した高学年で多く学習させているからです。私はそのことを、二十年にわたる実験で確かめました。

漢字は、記憶力が旺盛で、しかもこれを覚えたがっている低学年のうちに親しませることが絶対に必要です。どんどん与えて、少しでも漢字力を高めておくことです。



いし い いさお
※石井 勲

1919年、山梨県に生まれる。

大東文化学院で中国文学を専攻。
現在、大東文化大学幼少教育研究所長。
おもな著書に「漢字による才能開発」「学習漢字図解辞典」などがある。

現住所 東京都渋谷区恵比寿西 2
-11-11-403